

・・・2020・8・17～ 75回目の終戦記念日に寄せて

若いきみたちに（亜起良のつぶやき）

「現役学生」であるきみたちに

漢語の「現役」の原義は兵役に服していること、軍務についている人のことです。ですから「現役学生」といえば兵役にかかわっている学生のことを意味します。ただし日本語での意味は異なっています。大戦後の国際的偏務としてひたすらに「非軍事平和国家」をめざすわが国では、単に学生であることにいい、上の漢語に合わせれば積極的に「平和の国づくり」にかかわっている学生という意味になります。

6000万人+の犠牲者（日本は310万人）を出した世界大戦の戦禍のあと、歴史の反省として敗戦国のわが国に国際的に託された偏務事業が、「非軍事・恒久平和」の国づくりです。この偏務のゆえに兵役がない日本では「現役学生」の意味合いが異なるのです。

青年時に国家・国土・国民のありようを知る「兵役」に符合するのが「公役」でしょうか。「兵役」義務のないわが国の青年も一時期、平和裏に国を守る意識を共有するための「公役」として、自主的に、男性はおもに地域・災害のために、女性はおもに介護・福祉の活動をするので、国家・国土・国民のありようを体験しておくことは「緊急事態（国難）」に対処する国家保持の基本としてあっていいでしょう。

今でも国際的に稀有な「非軍事平和国家」を実証する「現役学生」として、自主的に「公役」のプロセスを選んでいる若者が数多くいます。たとえば災害地ボランティアはその実例の姿です。次世代にこういう準備と活動があれば憲法に「緊急事態条項」など不要でしょうし、仮想敵国を攻撃できる武力の保持を議論することもないでしょう。

・・・・・・・・

国際的な「恒久平和」の実現を託されているわが国にも「自衛」としての「軍備」は必要です。「恒久平和」の国づくりだからといって「軍備」を持たないことは非現実的です。仮想敵国を想定した「再軍備」ではなく、中小の平和同盟国と意識を共有して国を守る最新鋭の軍備を常備しなければ、国際平和が守れないからです。それを「平和軍備」といいたしう。

小惑星に飛行体を衝突させる平和利用の技術は、軍事技術としては敵国の心臓部を個別に正確に認知して破壊できる軍事的抑止力であることを「平和軍備」として確認し、存在を公開することになります。原子力発電の技術も、分子利用の医療技術も、「平和軍事」の到達点として常備し、存在を公開せねばならないのです。それは国際平和の実現をすすめる日本の現実的な「自衛と軍備」の常備とっていいのです。

「平和軍備」部門には、最高レベルの科学者・技術者が参加せねばなりません。アメリカの原爆製造にかかわる「マンハッタン計画」は、「平和軍備」であるならば、砂漠での実験を公開して「抑止力」を機能させることまでで、広島・長崎に投下することはなかったのです。

「自衛力」としての「平和軍備」は必要です。「恒久平和」の国づくりだからといって軍備を持たないことは非現実的です。仮想敵国を措定した「戦争軍備」ではなく、中小の平和同盟国が自国の平和を守る最新鋭の「平和軍備」を常備しなければ、国際平和は守れないからです。

わが国の「現役学生」が「自衛と軍備」を考える際に基本とすべき論点として参考にしてください。